

「指導例」を有効に活用した単元構成のアイデア

学年・単元名

第2学年 「新聞に投書する意見文を書こう」(光村図書)

単元構想

指導例「新聞への投書～意見文を書く～」を取り入れて

本時

指導例「新聞への投書～意見文を書く～」

身近な意見文である新聞の投書欄の文章を読み、自分なりの考えをもつ。

1

投書に対する意見文とその書き直しの意見文を比較しながら読み、より分かりやすい文章についてとらえる。

投書に対して自分の意見文を書く。

テーマに沿って、自分の立場を決める。

2

書く材料として、立場を支える根拠となる事実や例を、体験や知識などから集め書き出す。

自分の立場や選び出した根拠に対する反論を予想し、それに対する意見を考える。

3

集めた材料を、文章の構成を考えながら順番に並べ、意見文(下書き)を書く。

書いた文章を、「推敲の観点」(語句や文の使い方、段落相互の関係など)に基づいて推敲する。

4

推敲を踏まえて、より分かりやすく、説得力のある意見文を書く。

書いた意見文を読み合い、立場の明確さ、根拠の適切さなどについて交流する。

5



押さえない指導のポイント

- 新聞に投書されている意見文の特徴をとらえさせる
- 比較して読むことを通して、よりよい意見文の書き方をとらえさせる
- 「この部分はこう書き換えるとよい」という主体的な考えをもたせる
- 条件を正確にとらえさせ、それに従って書くことを意識させる
- 交流の際には、条件に従って書いているかどうかということを確認させる
- 交流の際には、相互評価の観点を明確にし、その観点について、意見や感想を述べ合わせる

第一次

第二次

第三次